

令和8年1月30日

吉川福祉専門学校
校長 久田晴實 様

吉川福祉専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 小潟 竜一

令和7年度 第2回学校関係者評価委員会報告

令和7年度第2回学校関係者評価委員会において実施した「令和6年度自己評価報告書」に対する評価結果について、下記のとおり報告します。

記

1 学校関係者評価委員名簿

阿部 慎也	グループホーム サンパティオ 施設長
小潟 竜一	特別養護老人ホームしょうぶ苑 施設長
奥澤 陽子	株式会社きぼう グループホームゆい 管理者 卒業生
與儀 忍	高齢者福祉施設やしお苑 副施設長
横張 亜希子	埼玉県立三郷高等学校長

(五十音順)

2 学校教職員

久田 晴實	吉川福祉専門学校長
鯉沼 聡美	同 教務主任
山本 晃市	同 事務長
田村 貴章	同 事務長代理

3 学校関係者評価委員会開催状況

日 時：令和8年1月15日（木）9時00分～10時40分

会 場：吉川福祉専門学校 演習室

参加委員：学校関係者評価委員4名、学校教職員3名（陪席）

欠席委員：奥澤 陽子

欠席教職員（陪席）：鯉沼 聡美

4 委員会次第

開会

（1）校長挨拶

（2）議長選出

（3）報告

① 第1回委員会報告と情報公開について

② 今年度の授業改善等に関する取り組み状況について

（4）協議

① 第1回学校関係者評価を踏まえた課題への取り組み・改善の進め方について

② 令和8年度重点目標と達成計画・取り組み方法について

③ 学校に対する意見・要望など

（5）その他

① 今後の予定

② 事務連絡等

5 第2回委員会議事要録

別紙のとおり

以上

令和7年度吉川福祉専門学校 第2回学校関係者評価報告書

令和8年1月30日

1 第1回委員会報告と情報公開について

- ・第1回委員会を7月24日（木）に実施した。情報公開についてはHPに公開されているのでご確認いただきたい。

2 今年度の学校運営および教育活動に対する中間評価について

- ①学生募集の状況について（令和8年度生）
 - ・学校見学に来てくださる入学希望者の受験率が高い。
 - ・現在、定員の6割程度（24名程度）の入学者は予想できる。
 - ・毎年、入学者が30名以上いることが損益分岐点の一つとなっている。
 - ・入学者を増やす方法の一つとして、留学生を多く入学させるという手段はある。
 - ・委託訓練生については、一人親の方、また春日部市では一人親をサポートする部署があり、今後はそういった方々にも、委託訓練制度の周知をしていきたい。
 - ・委託訓練生には、14：30に授業終了ということがニーズに合っていそうである。
- ②在籍者数について
 - ・22名中21名の卒業を見込んでいる。新入生はそれ以上の数が見込めている。
- ③退学者数及び休学者数について
 - ・マッチングが合わなかったかなという学生がいる。また家庭の事情が変わり学びを続けることができなくなったケースもあった。
 - ・コミュニケーション能力不足の学生もいた。
- ④成績不振者の状況について（資料のとおり）
- ⑤今年度取り組んでいる教育活動について
 - ・実務者研修は受講者11名。初任者研修については受講希望者が少なかったため実施なし。
- ⑥その他の活動について
 - ・子ども大学よしかわは本部に移管して実施した。
- ⑦第15回オールケアジャパンコンテストについて
 - ・2年生のSさんが奨励賞（2番手）を受賞した。

3 第1回学校関係者評価を踏まえた課題への取組み・改善の進め方について

- ・訪問入浴を専門としている会社の方を外部講師としてお招きし、訪問入浴の実情や実技等を学ばせることができた。
- ・国家試験対策講座については、今年度より導入されたパート合格についてどのような扱いになるのかということはあるが、学生には一発合格を目指し、2年間しっかり学んでもらっている。
- ・文化祭（吉福祭）は、今年度で10回目となり、だいぶ定着してきた。
- ・留学生は、昨年度の卒業生は0名だったが、今年度は1年生が7名、2年生が4名の計11名在籍している。
- ・看護師免許を有する専任教員が期中で退職し、代替の教員採用がまだできていない。
- ・就職率は96%。現時点で卒業予定者のうち2名以外は就職の内定をいただいている。例年、8・9月の実習のあとに就職試験、内定の流れだったが、最近は8・9月の実習の前に内定をいただくケースも増えてきた。
- ・国家試験は2名が不合格者であった。（1名は1点足りず、もう1名は科目郡で0点だった）

4 次年度の重点目標および達成計画ならびにその他学校教育活動全般について

- （委員）現在の1年生の就職内定率は？
- （学校）1年生の就職内定率は0%である（ただし、留学生については、現在アルバイト中の施設への就職を希望している）。なお、多くの1年生は、2・3月の介護実習後に就職活動を行う予定である。
- （学校）埼玉県介護福祉士修学資金制度を利用している学生も多く、来年度卒業予定の学生に千葉県出身者はいない状況である。
- （学校）施設によっては、各県の修学資金の返済費用を、全額ではないがその施設で就業している間は返済に充てる費用を施設が捻出してくれるところもあると聞いている（修学資金を借りている県とは別の県に就職する場合）。
- （委員）介護業界は年中無休という認識が介護職員間ではあるが、今の学生は休みの面などサラリーマン的な要素（完全週休二日制など）を求めているのか？
- （学校）夏休みや年末年始のお休みがサラリーマンとは違うとの認識を持っている学生がほとんどである。
- （学校）土日にお休みをしたい学生は、デイサービスへの就職傾向が強い。また、夜勤専従の働き方を希望する学生（特に男子学生）もいなくはない。
- （学校）「自宅から通いたい」「自宅からより近いところがいい」という学生も数年前と比べて多いように感じる。
- （学校）お給料等も大事だがライフワークバランスを重視している学生も増えている。これらは10年前に比べると増えている肌感覚がある。

(委員) 実習先でないとどこに就職を希望される学生はいるのか？

(学校) 実習先以外の施設に就職する学生もいます。

(学校) インターンシップを実施している施設は少ないが、過去にはインターンシップでお世話になった施設に就職した学生もいた。

(学校) 傾向としては、若年層の学生は実習先に就職する割合も近年多くなっている。また社会人経験のある学生は、実習先ではなく自宅の近所に就職を希望する割合も多い。

(委員) 学費の面で入学を諦めてしまう入学希望者はいるのか？

(学校) 介護福祉士修学資金制度や高等教育無償化などの利用により、ある程度の学費はカバーできるようになったことで、学費の面だけで入学を諦めてしまう方はそれほど多くはない印象がある。ただし、そのような制度を知らない方や制度を知っていても、借金を抱えたくないという方（親御さん）も一定数いる。

(委員) 家庭の事情により進学を断念して就職をする生徒もいる。生徒本人というよりも親御さんがどう理解しているかが大きいのではないかな。

(委員) A I の発展により、今後、ケアマネジャーの仕事はA I でもやれるようになってしまっているのではないかな。一方、介護福祉士の仕事はなくてはならない点では売りになるのではないかな。

(委員) ぜひ、施設見学を学生さんだけでなく、先生方にも見に来ていただきたい。

(委員) 学生募集について、施設としてもご協力できることがあればと思っている。

(委員) 介護施設は病院と違い、サービスを利用する方がいないかぎり施設に出入りすることはなく、閉ざされているイメージを持つ方もいらっしゃると思う。もし、お子さんの就職先で心配な親御さんがいらっしゃれば、ぜひ施設見学等の形で学校に協力できる部分もあると思う。

(委員) 学校と介護施設の見学会のコラボレーションはいいなと思っていたら、実施されたことがあるとのこと。親御さんも介護施設も一緒に見学してもらうことで、安心する気持ちもあるでしょうし、生徒さん本人も実際に働く可能性がある現場を見ることで入学意欲にもつながるのではないかな。

(委員) 生徒募集は難しいと思うが、介護福祉士養成校の存在意義は大きいと思うので、引き続き生徒募集をがんばっていただきたいと思う。